

令和2年2月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年2月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸地方に春を呼ぶ、豊年祈願の郷土芸能「八戸えんぶり」が2月17日（月）～20日（木）の日程で開催されます。

えんぶりの一番の見どころは、太夫（たゆう）と呼ばれる舞手が、馬の頭をかたどった華やかな鳥帽子（えぼし）を被り、頭を大きく振って舞う「摺り」です。その舞は、種まきから稲刈りまで稲作の一連の動作を表現したもので、独特な唄に合わせて舞うさまは神秘的な趣があります。

太夫の舞の合間には、子どもたちによるかわいらしい祝福芸も披露されます。

みなさま、ぜひ「八戸えんぶり」にお越しください。

◆八戸えんぶり【開催期間：2月17日（月）～20日（木）】

※詳細はこちらをご覧ください。

https://visithachinohe.com/stories/enburi_schedule/

八戸えんぶり鑑賞後は、あたたかいブイヤベースをお楽しみください。

◆八戸ブイヤベースフェスタ【開催期間：2月1日（土）～3月31日（火）】

※詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.hhrp.jp/hbb/index.html>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 2月号

令和2年1月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市営魚菜小売市場 耐震補強の改修へ

【産業】

記事	概要
(2)	「八戸ブイヤベーススープ」缶詰 新発売
(3)	田子産ニンニクを使用した「焼きにんにく味」ポテチ発売
(4)	アマチュア音楽家 中居翔三さん制作の「八戸ワインの唄（仮）」完成
(5)	青森県内タクシー運賃 2月より値上げ

【地域】

記事	概要
(6)	八学短大幼稚保育学科生が「八戸市子育てマップ」作成
(7)	完成間近の蕪嶋神社で「お白石持行事」
(8)	“すべらないお守り” 八戸駅で無料配布
(9)	八戸工大一高 「宇宙プログラム構想」発表
(10)	市中心市街地活性化協議会が「八戸タウンマップ」作成
(11)	島守中に文部科学大臣表彰 開校以来の清掃活動評価
(12)	青森県内記録的暖冬 真冬日ゼロで馬淵川いまだに結氷せず

【文化・スポーツ】

記事	概要
(13)	世界的な陸上選手「人見絹枝」の絶頂期の表彰状 八戸で発見
(14)	箱根駅伝 駒大の田澤廉（是川中出）が3区で区間新
(15)	奥山大さん（八戸市出身、慶大生）が元日本代表 本田圭佑と社会人クラブ設立
(16)	「フラットアリーナ」で4月にアイスショー～羽生、紀平ら豪華競演～
(17)	田名部記念アリーナ 30年の歴史に幕
(18)	eスポーツイベント「八食パワーズカップ」開催
(19)	東京五輪の選手村交流施設 青森県産木材を随所に使用
(20)	八戸国体開幕～魅力、希望、感動 全国に～

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市営魚菜小売市場 耐震補強の改修へ JR陸奥湊駅前地区の再開発計画を巡り、八戸市は老朽化した市営魚菜小売市場の耐震化が必要になったとして、建物に「リノベーション」を施す方針を明らかにした。市が示した工事案によると、建物のくいと1階部分への荷重を軽減するため、2階部分を撤去。耐震性のある外壁を増設するほか、既存の柱を増強する計画である。早ければ来年度にも設計を行い、2021年度に工事に着手したい考えである。

【産業】

記事	概要
(2)	「八戸ブイヤベーススープ」缶詰 新発売 水産業界有志の団体「八戸ハマリレーションプロジェクト」と八戸市、JR東日本盛岡支社は1月12日から、八戸港に水揚げされた魚介類を使ったスープの缶詰「八戸ブイヤベーススープ」を販売した。八戸産サバやタラ、エビの頭、トマトなどの野菜類、ハーブ、複数のスパイスを煮込んだもので、1年かけて試作を重ねた労作。4号缶（415グラム）で税抜き900円。ユートリーなど土産品店をはじめ青森、岩手両県の主要なJRの駅店舗などで販売しているほか、今後、首都圏での販売も予定している。
(3)	田子産ニンニクを使用した「焼きにんにく味」ポテチ発売 カルビー（東京）は2月17日、東北6県などで田子産ニンニクを使ったポテトチップス「焼きにんにく味」を発売する。田子のニンニクは2017年以来の“再登板”で、今回は塩味を基本に、隠し味としてしょうゆを加え、こんがりと焼いたニンニクの味を表現。味わいが長く続くよう、ジャガイモを薄切りにするなど、工夫を凝らした。東北6県と新潟、長野両県のほか、東京や京都、大阪などのアンテナショップで販売する。
(4)	アマチュア音楽家 中居翔三さん制作の「八戸ワインの唄（仮）」完成 アマチュアのシンガー・ソングライターとして活動している八戸市の中居翔三さん（35）が、八戸ワインをテーマとした「八戸ワインの唄（仮）」を完成させた。八戸ワインを手掛けている澤内醸造の澤内代表から勧められ、2年ほど前から作詞作曲に着手。ブドウ生産者の苦労やワイナリーの熱意に想像を巡らせ、やがては世界に通用する地域ブランドに成長するよう、歌詞に思いを込めた。1月24日に澤内醸造が新作ワインを発表した席上、完成作を熱唱した。
(5)	青森県内タクシー運賃 2月より値上げ 青森県内のタクシー運賃の上限が2月1日に引き上げられる。運賃の改定後は、これまでの小型車と中型車を「普通車」に統一し、初乗り運賃と加算運賃の距離を短縮する。値上げの幅の改定率は12.66%。普通車の上限運賃の場合、初乗り料金は現行の小型車と同じ670円だが、距離はこれまでより0.3キロ短い1.2キロ。加算距離は292メートルと40メートルの短縮となり、メーターの上昇ペースが速くなる。運賃の値上げは、近年不足するタクシー運転手の待遇改善や、外国人旅行客対策への設備投資などが要因で、消費増税時を除けば12年ぶり。

【地域】

記事	概要
(6)	八学短大幼児保育学科生が「八戸市子育てマップ」作成 八戸学院大短期大学部幼児保育学科の学生が、観光用などの一般的なマップとは趣向を変え、子育て中の親に役立つ八戸市や周辺のスポット、見どころをまとめた「八戸市子育てマップ」を作成した。市内の路線バスの路線図を描き、「こどもはっち」や市立図書館の児童図書コーナー、市視聴覚センター児童科学館など、市内15カ所の詳細を掲載。写真と共にQRコードも載せ、各施設の公式サイトにアクセスできるよう工夫した。また、身近な素材を使った遊び道具の作り方なども掲載し、保育士を目指す学生ならではの視点を随所に盛り込んだ。マップは市内の公共施設や飲食店、病院など約20カ所に掲示されている。
(7)	完成間近の蕪嶋神社で「お白石持行事」 新たな社殿が完成間近となった蕪嶋神社で1月1日から5日まで、再建に向けた神事「お白石持（しろいしもち）行事」が行われた。お白石持行事は、白布に「お白石」を包んで参道の階段を上り、社殿後方の玉垣にお白石を敷き詰めて奉獻する神事で、新年の幕開けを祝う「元旦日の出祭」に引き続いて行われた。火災で社殿を焼失して以降、初めて蕪島の頂上で新社殿の外観を見る機会になり、初詣を兼ねた市民らが続々と参加した。
(8)	“すべらないお守り” 八戸駅で無料配布 JR八戸駅は1月4日、駅構内で、駅利用者に合格祈願の「すべらないお守り」を無料で配布した。同駅が毎年、受験生を応援しようと実施している取り組みで、今年で10回目。お守りは、同駅新幹線改札口付近で実際に使っている滑り止めシートを加工して作ったもの。午前10時の配布前から約30人が並んで待つほどの人気ぶりで、受験を控えた生徒や子どもらが、ご利益を得ようと受け取った。
(9)	八戸工大一高 「宇宙プログラム構想」発表 八戸工大一高は、全国の高校で初めての人工衛星打ち上げを目標とする「宇宙プログラム構想」を発表した。計画では、今年3月から上空20～50キロの成層圏へ気球を打ち上げる「スペースバルーン」の経路の計画表と設計図を作成。6月に打ち上げて、写真撮影などを行い、地上で機材を回収する。その後、夏ごろから、1辺が10センチの立方体で重さ1.3キロの超小型衛星の設計を開始し、2022年冬に打ち上げ、運用を開始する。ゆくゆくは津波観測などを行い、地域貢献につなげたい考えである。
(10)	市中心市街地活性化協議会が「八戸タウンマップ」作成 八戸市中心市街地活性化協議会が「八戸タウンマップ」を作成した。市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」と各施設との位置関係が明確になっているほか、中心街のカフェや居酒屋をはじめとした店舗情報、車いす対応のトイレやバス停などの位置も掲載。「横丁」や土産物、市民御用達のレトロな飲食店など目的別の店舗・施設紹介もあり、中心街散策に適した内容になっている。YSアリーナや「はっち」、中心街の店舗・公共施設などで配布している。

	島守中に文部科学大臣表彰 開校以来の清掃活動評価
(11)	八戸市立島守中の教職員全員が2019年度の文部科学大臣優秀教職員表彰に選出された。同校は、毎年6月上旬に開催される、福一満虚空蔵菩薩と龍興山神社、高山神社の例大祭を前に、神社周辺の清掃活動を実施。開校した1947年から取り組みを続けている。活動の狙いとして同校は、生徒の地域に対する感謝の気持ちや貢献する態度を育てること、伝統行事を大切にして郷土への理解を深めてもらうことを挙げている。熊谷誠二校長と生徒会長で2年の館信之介さんがこのほど、市教委に伊藤博章教育長を訪ね、喜びを伝えた。
(12)	青森県内記録的暖冬 真冬日ゼロで馬淵川いまだに結氷せず 青森県内では、昨年12月～1月の平均気温が平年に比べて高く、八戸の平均気温は1月中旬が0.3度と平年を1.4度上回るなど、平年値を1～2度上回る高さで推移。一日の最高気温が0度未満の「真冬日」も、昨年12月から未観測のままで、白鳥が羽を休める馬淵川は結氷する気配がない。偏西風などの影響で本州付近への寒気の南下が弱いことが原因とされており、向こう3カ月は平年並みか高い気温が続く見込みである。

【文化・スポーツ】

記事	概要
(13)	世界的な陸上選手「人見絹枝」の絶頂期の表彰状 八戸で発見 大正～昭和初めの世界的な陸上選手、人見絹枝（1907～31年）が1929年に満州で開かれた国際大会の女子60メートルで優勝した際の表彰状が、八戸市根城の木附沢賢司さん（83）方で見つかった。すし店を営んでいた木附沢さんが20～30年前、所蔵していた客から譲り受けた資料のうちの一つで、倉庫に保管していたが、昨年秋になって発見した。表彰状は人見の遺骨を分骨して納めた墓がある八戸市の本覚寺に寄贈された。
(14)	箱根駅伝 駒大の田澤廉（是川中出）が3区で区間新 1月2日に行われた第96回東京箱根間往復大学駅伝の3区で、駒沢大の田澤廉（八戸市立是川中ー青森山田高出）が1年生ながら区間新の快走を見せた。13位でたすきを受けた田澤は、「とにかく前の集団を追い越せ」との監督の指示に応えるように序盤からハイペースで飛ばし、7人抜きの激走。タイムの1時間1分25秒は区間3位ながら、区間新を記録した。将来の目標はマラソンでの五輪出場と、田澤は今後の飛躍を誓っている。
(15)	奥山大さん（八戸市出身、慶大生）が元日本代表 本田圭佑と社会人クラブ設立 八戸市出身の奥山大（まさる）さん（慶應義塾大4年）がサッカー元日本代表で実業家としても知られる本田圭佑と共に東京都に社会人サッカークラブ「One Tokyo」を設立した。昨年12月に会員制交流サイト（SNS）でサッカーに関する情報発信を行っていた本田に、ツイッターで自身のサッカーへの思いなどを相談したところ、都内で面会することとなり、そこで意気投合し、クラブ設立に至った。奥山さんはチームの運営責任者、本田はオーナーとなる。選手の出来高や、ファンのクラブへの投資をポイント化し、ポイントに応じてクラブの運営に携わる新制度を導入する予定で、経営者、選手、サポーターの「三者一体」でチームづくりをするクラブを目指す。

(16)	<p>「フラットアリーナ」で4月にアイスショー～羽生、紀平ら豪華競演～</p> <p>八戸駅西地区に今春オープンする多目的施設「フラットアリーナ」で4月3～5日、アイスショー「STARS ON ICE JAPAN TOUR 2020」が開催される。平昌冬季五輪フィギュアスケート男子金メダリストの羽生結弦、2019年四大陸選手権金メダリストの紀平梨花ら、世界で活躍するスケーターが多数出演する予定。座席は全席指定で、一般販売は2月9日から始まった。</p>
(17)	<p>田名部記念アリーナ 30年の歴史に幕</p> <p>青森県アイスホッケー連盟は1月21日、老朽化する施設の改修費を負担できることなどを理由に、八戸市河原木の屋内アイスホッケー場「田名部記念アリーナ」の運営から3月末で撤退することを明らかにした。1990年の開館以来、多くの大会会場となったほか、練習場や合宿場として使わされてきた。連盟によると、年間数千万円に上る維持管理費は、市からの補助金や事業収入で賄つてきたものの、近年の赤字額は年間約2千万円を計上し、厳しい運営が続いてきた。今後も光熱費の増大、膨大な改修費用が見込まれ、長期的な維持が困難だと判断した。建物を所有する田名部組も「スケートリンクとしての役割を終了する」としており、施設は30年の歴史に幕を閉じる。</p>
(18)	<p>eスポーツイベント「八食パワーズカップ」開催</p> <p>八食センターで1月26日、コンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」のイベント「八食パワーズカップ」が初めて開催され、市内外から出場した16人が、人気ゲーム「鉄拳7」で対戦した。4グループに分かれて予選を行い、勝ち抜いた4人が決勝トーナメントに進み、「れおばば」の名前でエントリーした青森市の嶋中富夢さん（22）が初代王者に輝いた。会場の「くりやホール」には大勢の観客が訪れ、eスポーツの注目の高さをうかがわせた。企画した八食は継続開催を検討しており、地域活性化にもつなげたい考えである。</p>
(19)	<p>東京五輪の選手村交流施設 青森県産木材を随所に使用</p> <p>東京・晴海に整備している2020年東京五輪で使用される選手村の交流施設「ビレッジプラザ」が報道陣に公開された。青森県産の杉、ヒバ、アカマツをはじめ、全国63自治体から借り受けた約1300立方メートル（約4万本）の国産木材をふんだんに使ったのが特長である。青森県産材は計9.4立方メートル（237本）に上り、メインエントランスやメディアセンターを設けるA棟の梁や床材に使われている。大会後は解体され、各自治体の公共施設などでレガシー（遺産）として活用されるという。</p>
(20)	<p>八戸国体開幕～魅力、希望、感動 全国に～</p> <p>第75回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「氷都新時代！八戸国体」が1月29日、八戸市など青森県南地方で開幕した。初日は、昨年9月に供用開始となった屋内リンク・YSアリーナ八戸で開始式が行われ、42都道府県の代表が晴れ舞台での健闘を誓った。開催地を代表して、小林眞八戸市長が「郷土の代表として戦う皆さんに、新しい屋内リンクで新たな歴史を刻んでほしい」とエールを送った。同地方でのスケート国体開催は2011年以来9年ぶり。</p>

ふるさと寄附金のご案内

「ふるさと寄附金」とは、市内外を問わず、「八戸を応援したい」という方々から広くご寄附をいただく制度です。これまで納めてもらっていた税を「ふるさと寄附金」に振り替えていただくことで、直接、寄附者の意向を八戸のまちづくりに反映することが可能となります。

- ◆ 寄附金の使いみちをお選びいただき、「震災復興基金」「奨学ゆめ基金」などの基金積立や、教育・福祉・環境などの各種事業に充てることができます。
- ◆ 寄附をされた金額のうち2,000円を超える分について、一定限度まで住民税の税額控除が受けられます。
- ◆ 法人・団体からの寄附も受付しています。法人の場合、地方公共団体に対する寄附金は全額が損金算入できます。
- ◆ 寄附をいただいた個人の方には、金額に応じて、八戸せんべい汁セットやいちご煮セット、八戸いかごはんギフト、南郷そば・つゆセットなどの特産品を進呈いたします。
- ◆ 総務大臣からの通知（平成29年4月1日付け総税市第28号）を踏まえ、平成29年7月から、八戸市内在住の方へのお礼の品の進呈を取りやめることとしております。

10,000円以上30,000円未満 …… 特産品Aから1品

30,000円以上50,000円未満 …… 特産品A～Bから1品

50,000円以上100,000円未満 …… 特産品A～Cから1品

100,000円以上 …… 特産品A～Dから1品

詳しくは <https://www.furusato-tax.jp/city/product/02203> をご覧ください。

お申込み方法

ホームページ

⇒ 八戸市ホームページ（<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/furusato/>）から、「ふるさと寄附金申込フォーム」に必要事項を入力して送信してください。

郵送

⇒ 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項を記入して、八戸市住民税課へ郵送してください。
「ふるさと寄附金申込書」は郵送でお届けしますので、八戸市住民税課までご連絡ください。
ホームページからもダウンロードできます。

<宛先> 〒031-8686

青森県八戸市内丸一丁目1番1号 八戸市 住民税課 ふるさと寄附金担当

TEL : 0178-43-9232（直通）、Email : jumin@city.hachinohe.lg.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。

八戸市東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL : 03-3261-8973 / FAX : 03-3239-6723 / Email : tokyo@city.hachinohe.lg.jp

所長 古町有加 主査 川村幸男 書記 瓢利京子